



広報

なは市民の友

第608号 毎月1回発行

2001年(平成13年)

9月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷(株)池宮商会

みんなできこえ
ラジオ広報
「那覇市民の時間」毎週日曜日
RBC・午前9時15分から25分まで

那覇市
ホームページ
http://www.city.naha.okinawa.jp/



主な紙面

- (2面) 待ったなし! 那覇市のこみ減量
- (3面) 平成13年度 観光功労者を表彰
- (4面・5面) 夏! なのはの街に咲き乱れた舞・技・音
- (6面) 平成12年度・下半期那覇市の財政
- (7面) 情報PACK

海の日フェア

那覇港って、おっきいね。

「港湾施設めぐり」で 私たちの那覇港、再発見。

7月22日、快晴の日曜日。那覇港泊ふ頭に、白鯨のロゴマークを染めぬいたモビーディック号がゆつくりとその姿をあらわしました。「海の日フェア」の催しとして市が企画した「港湾施設めぐり」です。

夏休み最初の日曜日とあって、とまりんビル2階デッキの乗船受付には、家族づれなど大勢の市民が列をつくりました。

「あそこが三重城と空港を結ぶ沈埋トンネルの入口になります。むこうに見えるのが波の上人工ビーチです」という船上での市職員の説明に、大きくうなずきながら指をさす親子づれ。「那覇港って、おっきいね!」という喚声も聞こえてきます。

那覇港は、ペリーの黒船艦隊が五度も立ち寄り、滞在した沖縄の海外交流発祥の地ともいえるゆかりの地です。あれから約一五〇年近くの歳月がながれ、那覇港は近代的な港として年々その形を変えつづけています。

那覇港の現在の姿を海から眺め、港の役割を学ぼうと乗船した子どもたちの真つ黒に日焼けした笑顔が、まぶしい夏の日差しにかがやいていました。十一月には、ペリー上陸ゆかりの地で、日米友好のイベント「ペリー祭」の開催も予定されています。

世界遺産の

周辺から

那覇の文化財③

市指定史跡 沢岬親方の墓

(たくしウエーカタのはか)



「沢岬親方の墓」は、繁多川四丁目にある古いお墓です。そのお墓の上に、位牌のような形をした石碑が取り付けられています。その石碑によると、このお墓は、沢岬親方盛理(たくしウエーカタせり)が存命中に、その功績によって国王から与えられたことがわかります。

沢岬親方盛理は、尚真王代の三司官として国王を支えました。

一五二二(嘉靖元)年、明の皇帝が即位したお祝いに、慶賀使として中国に渡りました。その時、皇帝が外出する際に、警護はもちろん、独特の音楽が奏でられることを学び、楽器を求めて持ち帰り、国王が首里城から外出する時の「路次楽」をはじめたと伝えられます。もっとも、



「路次楽」の記録は、もう少し遡るようです。また、国王が外出する際に乗る「鳳凰驕(ほうおうきよ)」、も持ち帰りました。さて、世界遺産「首里城跡」にある「瑞泉(ずいせん)」は、今日でもほとんど水が湧き出しています。かつて、この水を口にすることができたのは、国王と冊封使だけでした。冊封使が滞在していた、那覇の大使館(てんしかん)まで、毎日この水を届けました。その味はいは格別で、歴代の冊封使たちは、「瑞泉」をたたえる言葉を贈り、それが石碑に刻まれて泉の周囲に建立されています。

その水の出口は、龍の頭になっています。そのため、「瑞泉」は「龍樋(りゅうひ)」とも呼ばれます。その龍の彫刻も、沢岬親方が持ち帰ったものです。

沢岬親方は、これらの高価なお土産を持ち込もうとしたためにあらぬ嫌疑をかけられ、一時那覇港付近に留められ、尚真王の口添えで、ようやく釈放されたと伝えられています。いわゆる、首里城跡の「平成の復元」において、本物の龍の彫刻がもとの位置に据えられました。

ちなみにその口から流れる水も本物の湧き水ですが、「瑞泉」とはいつでも泡盛が湧いているわけはありません。あしからず。(那覇市教育委員会 文化財課)